

卒業生に贈る言葉

住 谷 悦 治

一、駅長のところ、総長のところ

今朝の「朝日新聞」(三月九日)に「退職する今崎国鉄京都駅長」の駅長としての最後の勤務につく新幹線ホームにおける写真入りの記事が掲載されていた。乗客の降り乗りしたあと発車する列車に対して拳手の礼をしつつ見送っている仲々いいポーズの写真と記事である。わたくしは、しばし見惚^とれてから切り抜いてスクラップブックに貼りつけた。何故この写真入りの記事に執着したのかというと、この時の駅長の心境は、男女大学卒業生を毎年社会へ送り出すときの総長としてのわたくしの心にそのまま通うものを感じたからである。

駅長さんは誰れが降車して誰れが乗車したかを一々知っているわけではあるまい。乗客が安全にその目的地へ到着することをひたすら希^{ねが}う心であろう。嘗^{かつ}てわたくしは大学教授

として数十年も教壇に立ってきたが、現在は誰れが入学し、誰れが卒業するか、総長として十年余、その喜びや誇りは教授の時のような切実さに乏しい。教授の時代にはゼミの二十名余りの学生を毎年有^もつていて、切磋琢磨^{せつたつま}し、或はゼミ旅行をし、時には二泊、三泊をともにし楽しいコンパをして語りあかし、人間としてまた師弟としての想い出が濃厚であり、恐らく生涯の師弟・終生の友となるであらう。現在、総長として毎年顔も名も知らぬ男女大学卒業生の多数を送り出す気持は、駅長さんのところと同じく、その人生行路の平安を一般的に漠然と希うだけである。ただ、教学の責任者として、その内容において特殊のプラスアルファを感じている。

二、卒業生諸君へ

それは卒業生がたった一人の例外もなしに、同志社教育の真実を身につけて、良心的な社会人として終始行動し、世のため人のために有用な存在となつて欲しいということである。同志社教育には明確な建学の精神としての特殊性と、一般学園における普遍性との統一的な実践的な立場があり、それはキリスト教精神、あるいは苦難を経た新島精神といわれ、同志社精神として一般化されている。これなくしては同志社存在の意義も無く、大学教科の各学問も組織も驕^{おごり}を致すものとなり易い。普遍的な教育理念と同志社教育で強調される良心的な特殊教育とを内面的に統一融合せしめて人間形成へ生成発展せしめる努力。両者がバラバラに別個の教育実践を独走してゆくのではないこと。それは新島襄先生が身を

もって示された現実的な歴史的事実である。われわれも、卒業生諸君も、ともにその実践が困難である故をもって、回避したり断念したりしてはならない。「聖書」の「コリント人への第二の手紙」の言葉を贈りたい。“We are pressed on every side, yet not straitened; perplexed, yet not unto despair; pursued, yet not forsaken: smitten down, yet not destroyed.”

もし、荊の人生において計らずも打ちのめされたら、何度でも勇ましく立ち上って欲しい。knock down されても断じて人生闘いの舞台から knock out されない新島先生的な勇気と心構えを有って欲しい。

三、ホロにがい二三の言葉

わたしはこれまでしばしば同志社を熱愛している校友から戦後の卒業生の何人かについての就職試験エピソードを聴かされた。冷汗のするような実話である。

(問)「君は同志社大学卒業生だね。新島先生についてどう思っていますか」

(答)「同志社大学には六学部あって数百人の先生がいますが、新島先生という先生は何学部先生か知りません」

その先輩社長はこの答をきいて全身の体の血が一時に逆流するような怒りを覚えて、危く「バカッ」とどなるところであったという。またある会社の採用審査委員の先輩が、「君は同志社大学にある『良心の碑』を知っていますか。どんな言葉が書いてありますか」と質

問したところ、四人の同大卒業生の誰れ一人答えられなかったそうである。この先輩は涙を浮かべて語った。また、ある先輩審査委員は、「君は教科書以外にどんな本を読みましたか」と尋ねたら、「このごろマンパシウを読んでいます」と答えたそうだ。何のことか不明だったが、あとで解ったが、それは「萬葉集」(まんにようしゅう)のことであつた。これらの話は極端な例かもしれないが、これに類した話はさまざま耳にしているのである。四年間の大学生活は思えばけつして短かいわけではない。諸君は社会の尊敬に値する先輩たちが、新聞や雑誌に読書指導として自らの「読書遍歴」を正直に語っているのをお読みでしょう。わたくしは相当に立派な卒業生が大多数であることを信じたいが、応々にして卒業さえすれば、卒業証書さえ貰えれば、就職ができるなどという安易な便宜主義が心の底にうずくまっているとすれば、その人の証書は「四年間の滞在証書」か「授業料の受け取り証書」といった意味に過ぎない。「修業」とか「卒業」の名に値しない。四年間を案外無意義に空費し、教室にも出ず、教授たちの訾^{せいが}にも触れず、ビラまき、宣伝の看板書きに惜しい青春の情熱を発散させたり、パチンコやマージャンで教室を軽視・無視して、相互の学問的切磋琢磨の意味も味わず、独善的に自説を高く評価して満足自負し、自分同志社大学卒業生などと誇示して欲しくない。しかし過去五十年、わたくしの知ったかぎりでは、嘗て同志社学園に学んだことを異句同音に倖せだつたと回顧し、後悔などをしたような校友同窓生を、まったく一人も見なかったことを付言し、同志社教育ってこういうものかなァとしみじみ感じているが、将来も変な例外のないように切望する。

(同志社総長)

地の塩 世の光

松山義則

卒業生諸君。同志社大学における学業を学びおえて、いま広く社会に門出する日をむかえられました。心からおよろこび申し上げます。

諸君は小学生のころから今日の日まで、長い学校生活をすごされました。その間に数多くのものを学びとり、いろいろな人々とのめぐりあいのなかで愛やいかり、そしてかなしみを体験し、また多様な認識と世界観とを身につけてこられたことと思います。

ことし、いま大学を去って諸君は学友と別れ、それぞれ新しい道を進むこととなりました。広い社会のなかで諸君はさらに数多くのことを学ばれ体験されることと思います。人生は言うまでもなく決して波おだやかなものではありません。苦難にも失敗にも失意にもたえて歩まねばなりません。なによりもじつと耐え、努力に努力をかさね、勇気をもって意欲をもやし、気おちすることなく倒れることなく、たたかれても屈せず明るく歩いて下さい。

新島襄先生は同志社大学設立の旨意のなかで「一国を維持するは決して二三英雄の力に

非ず。実に一国を組織する教育あり、知識あり、品行ある人民の力に拠らざる可からず。これら人民は一国の良心とも謂う可き人々なり。而して吾人は即ち此一国の良心とも謂う可き人々を養成せんと欲す」と言われています。未知にして洋々たる将来に向われる同志社大学の卒業生諸君が、新島先生の念願された「教育あり、知識あり、品行ある人民」であり、「一国の良心」として生きぬかれると信じています。

諸君が旅立たれる同志社大学は、この秋創立一〇〇周年を記念するときをむかえます。新島先生が二人の教師とともに八人の学生をあつめ、祈りのなかに同志社を開学されたのは明治八年十一月のことでした。明治、大正、昭和と長い歴史を歩みつけ、その間十五万人に及ぶ有為の青年を同志社は全世界に送り出してきました。その人々は「一国の良心」としての気概に徹し、世界のあらゆる場所において地の塩、世の光として働いています。諸君がこの先輩たちにつづいてよき証し人となって下さることを願っています。

新島先生は天地が神によってつくられ、人間もすべて神の被造物であることを信じていました。しかし、われわれ人間はまことに気まま勝手であり、自己を中心にして生きようとし、世界は自分のものであるがようになわがままな考えをもちがちです。人間は自分というもののなかにとじこもり、自分からはなれることは所詮できない存在であるからでしょう。けれども人間がすべて神によってつくられたものであり、この世界でなすべき仕事や務めをひとりひとりにあたえられているとすれば、われわれはただ勇氣をもって希望をもってたくましく歩むべきであると思います。聖書は「神もしわれらの味方ならば誰かわれらに敵せんや」と教えています。最後の勝利を信じて歩み出して下さい。卒業生諸君の御健康と御幸福を心から祈ります。

(同志社大学長)